好天の中、歓声いっぱい運動会

町内小学校、幼児センターで恒例の春の運動会が行われ、グラウンドに元気な歓声と応援の声が各地区でにぎやかに響きました。

5月29日、今年のトップを切って開いたのは東川小（村田俊昭校長、374人）。気持ちのいい春の青空が広がり、伝統の綱引きや競技に力いっぱいがんばるわが子や孫の元気な姿にグラウンドいっぱいの声援が響きました。

東川養護学校（千葉紀行校長、19人）は6月4日、第一小（澤田安男校長、30人）、第二小（工藤芳美校長、36人）、第三小（菅原敏光校長、28人）とともに翌5日、幼児センター（伊藤和代園長、243人）は同月18日に開きました。

幼児センターの運動会は、午後から雨天となり、午後に予定していたプログラムは室内に変更して、5歳児の団体競技4色リレー1種目を行いました。

綱引き
（東川小）

むかでの心はひとつ!
（第一小）

紅白大玉リレー
（第二小）

マーチングバンドの演奏
（第三小）

世界ゴルフ東川大会
（東川養護学校）

2歳児「うさぎ」組さんの「くだものだいすき」
（幼児センター）

事故絶滅をーと安全大会

5月27日、農村環境改善センターで東川建設業協会安全大会、交通安全町民大会が行われました。

建設業協会（藤田裕三会長）の安全大会には、町内の各建設関連事業所から約150人が出席。交通安全町民大会には約300人が参加して、ともに安全意識の確認、無事故徹底の誓いを新たにしました。

昨年以来2件続いて交通死亡事故が発生し、無事故への取り組み強化が大きな運動目標。坂井英文旭川東警察署長は「死亡事故を防ぐ取り組みにがんばってもらいたい」と激励しました。

第三小児童代表の6年生、高森燎治君、東川中3年、生活常任委員長の千田繭さん2人が交通安全を願い、東町1丁目町内会長の中島登さんが交通安全宣言をしました。

旭岳が山開き～山の安全祈ってヌプリコロカムイノミ

6月18日、大雪山旭岳（標高2千291㍍）が今季の山開きをしました。

今年の大雪山は、日本一遅くこの時期に満開を迎えるチシマザクラもまだつぼみが固いまま。旭岳6合目の旭岳ロープウエイ姿見の駅（標高千600㍍地点）から山頂にかけて7割近くも雪が残り、例年に比べて2～3週間季節の訪れが遅いそうです。

祈願祭は、肌寒い小雨模様の中で、町、町議会、ひがしかわ観光協会（浜辺啓会長）、東川商工会（藤田裕三会長）、大雪山愛護少年団員、自然保護監視員ら約60人が山の安全を祈りました。

夜になって旭岳温泉街の青少年野営場（標高千100㍍地点）では、アイヌ民族の儀式、ヌプリコロカムイノミが行われました。夏山の平穏を祈って祈りを捧げ、酋長が山の神に祈りの矢を放ちました。

会場には観光客らがいっぱい訪れ、大かがり火を一緒に囲んで輪になって踊り、にぎやかに夏山シーズンが幕を開けました。

目指せ頂上！初の「SEA TO SUMMIT 2011」

6月18、19の両日、旭岳の頂上を目指して、カヤック、バイク（自転車）、登山の3種目で自らの力を試す初の「大雪旭岳SEA TO SUMMIT 2011」大会が行われました。

同大会事務局（ひがしかわ観光協会内）が主催しました。

スタートは忠別ダム湖・忠別湖（標高420㍍地点）のカヤック会場。1人または2人乗りで片道2・5キロメートルの往復コースを漕ぎ、次いで忠別湖～旭岳温泉間約15キロメートル区間（標高差680㍍）を自転車で登坂。最後に旭岳ロープウエイ姿見の駅（標高千600㍍地点）～旭岳山頂（標高2千291㍍）約2キロメートル（標高差690㍍）を登山する、というハードな種目に挑みました。

カヤック会場の気温はセ氏15度前後で日が差す初夏の陽気。片や7合目から山頂にかけては濃霧に覆われ、体感温度は氷点下に感じるほど寒いレースになり、参加者は急激な高度差、温度差に苦労したようです。

参加17チーム・個人のうち、町内から東川第三小学校職員らの「チーム第三」、大雪消防組合東消防署員らの「しゃくレーシング」、ウェイミラー・トビーさんの3チーム・個人が出場し、全員完走しました。

同名大会は2年前、皆生・大山（鳥取）大会で初開催。今年東川大会が加わって全国4大会になりました。